



令和 4 年 5 月 1 日 現在	2,009 世帯
総世帯数	4,798 人
総人口	2,360 人
男	2,438 人
女	

童謡歌う ひばりの会

創立25周年記念演奏会開く

ふれあい文化祭の度に、小学生と一緒に歌っている神林ひばりの会は、共に創立25周年の童謡唱歌・歌うモナミと記念演奏会を5月8日Mウイングで開催した。



練習は当初夜であったが、途中で昼間の練習となり一時は56人と講座室満員の盛況であったが、高齢化と若い人の入会がなく、現在10人を切る人数となつてい



る。これまでの経過を聞き、平成11年11月11日発行の「みんなの童謡唱歌集」にはそれまで歌った曲とこれからの歌200曲が入っていて現在も愛用している。

演奏会では、日本国際童謡館歌手星野ひな子さんの独唱と、子供4人のかわいい歌声演奏に大きな拍手が送られた。またピアノ伴奏の佐原玉紀さんは、母上が神林の出身との縁で20年続けてもらっている。ひばりの会の演奏はここ2年しつかり練習し、いざ本番前に代表の欠場があり心配されたが「おおひばり」「崖の上のポニョ」など4曲を無事に歌い上げ、さらにモナミとの合同で「仲よし円舞曲」などを元氣よく歌い「ありがと」で無事終了となった。



親子楽々 25周年



ぼんぼりんのひろばが4月21日(木)福祉ひろばで開催された。毎月一回の開催で、親子が楽しく交流する場です。年度初め、職員含め自己紹介から始まり、五月の節句にちなみ、兜とこいのぼりを作りました。参加されたのは生まれて11か月の「はるいち」とんと「さ



くと」くんの二人で、お母さんが兜を作り、お子さんが白い生地のこいのぼりに手形・足形を付けて完成です。同じ年代のお子さんを育てるお母さん達とお話しも出来、「育児ストレスの発散」にもなるようですので一度参加されてはいかがでしょうか。

鎖川

「明日があるさ」は二通りの解釈がある。今クライナ人は明日にも侵略中止を願っている▼仕事をしたい「後は明日やれば」と気軽に言う場合が多々ある。明日とは未知の世に入る訳で大地震、事故に遭うかも、逆に素敵な出会いとか、表彰通知を貰ったりするかもしれない無限の可能性を秘めている訳です▼先刻知り合いの噂をしていたが翌日亡くなったとの記事を知り本当に驚く。明日は我が身にあるかもと身震いする▼神林でもこの二年間、新型コロナウィルス感染により、地区、町会、常会行事の殆どが中止となり、公民館五部門委員会も手持ち無沙汰で終わった。引き継ぎするにも体験不足で実例を伝えていくことが難しい状況です▼ふれあい文化祭50回記念葉の発行も2年続けて中止されて今年の文化祭が中止の折は「葉」の発行は取りやめと運営委員会では決めているという。明日は分からないが夢と希望で明るく動きのある地区、町会、常会を継続していつて貰いたい。

令和4年度公民館委員

運営委員

町会長

川西

川東

寺家

南荒井

町神

下神

梶海渡

町内公民館長

川西

川東

寺家

南荒井

町神

下神

梶海渡

館報編集委員長

△千代倉信二

藤澤

倉科

鷺澤

森田

岡本

野間

筒井

塩原

塩原

文化委員長

〃 副委員長

〃 副委員長

〃 副委員長

〃 副委員長

倉科

百瀬

松下

子ども会育成会長

健康づくり推進員会長  
神林商工会長  
スポーツ協会会長  
安協神林支部長  
識経験者

菅野小学校長  
菅野中学校長  
二子小学校長  
館報編集委員

図書視聴覚委員

体育委員

〃 副委員長

〃 副委員長

〃 副委員長

野口やよえ  
上條 薫  
田中 一利  
青柳健治学

井坪 秀明  
田中 耕史  
大和 正秀

〃千代倉信二  
小松裕一郎

〃倉科 香織  
中村ほづ美

〃岡本 一也  
滝内 泰子

〃森田 裕司  
深澤志津香

〃野間 順子  
野口 新

下神  
梶海渡  
立沢 裕  
吉澤 知歩  
小池 秀行  
田中 歩美

〃筒井 賢一  
藤牧俊一郎  
塩原 昌史  
上條 功  
荒井 秀夫  
畔上 博志  
倉科 雅彦

〃公民館長  
丸山 勝久  
丸山 貴大  
岡田 康子

〃主事  
丸山 勝久  
丸山 貴大  
岡田 康子

〃囑託  
丸山 勝久  
丸山 貴大  
岡田 康子

〃公民館長  
丸山 勝久  
丸山 貴大  
岡田 康子

〃主事  
丸山 勝久  
丸山 貴大  
岡田 康子

キーワードはなに?

本紙神林版の記事内にキーワードの文字が散りばめられています。見つけて言葉にしてください。わかった方は神林公民館に備え付けの用紙に必要事項を入力してご応募ください。アンケートにお答えいただいた正解者の中から抽選で5名に500円分の図書カードをプレゼント！締切は6月30日(木)、当選発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。多数のご応募お待ちしております！

【前回の答え】 おんはしらせい 【今回のキーワード】 ○○○○○○○○



三村昌三さんは全国から多数が応募する「刀剣研磨・外装技術発表会」で表彰された日本刀研磨の名人だ。一般企業に勤務しながら趣味として嗜んでいたが五十七歳で退職後に本格的に取り組み、独学で腕を磨き、全国のコンクールで表彰されるまでに至る。研磨には砥石が重要だが、砥石の状態を細部まで見極めるために細かく割って小片の状態を確認する。東京や京都などの専門店を探し廻っても納得いく砥石はなかなか見つからないという。三村さんは「刀によって状態が違うからその刀の持つ良さをいかに引き出すかが大事で、それが難しい。」と語った。日本刀の製作には刀身、研磨、はばき、つば、つか、さやなど各々に職人がいる。「鎌倉時代にどの様に刀を作っていたかわからない。現代の刀は足元にも及ばない。」

**神林どこの人あり! 13**  
三村昌三さん(南荒井町会)

と三村さんは語る。近年は腕利きの職人が少なく「仕上げ研磨は決まったやり方がなく、感覚によることが多い。伝承が難しい。」とも語った。

**令和4年度事業計画**

- 運営委員会
  - ・事業計画及び予算 (4月28日書面表決)
- 地区事業(実行委員会形式)
  - ・スポーツフェスティバル (9月4日)
  - ・第50回ふれあい文化祭 (10月16日)
  - ・球技大会 (2月26日)
- 館報編集委員会
  - ・公民館報 (年6回発行)
  - ・公民館だより (年12回発行)
- 体育委員会
  - ・ニユーススポーツ振興
- 文化委員会
  - ・ポスター・インクル (7月~9月)
  - ・史跡めぐりの開催
- 図書視聴覚委員会
  - ・自然観察会 (7月27日)
- 地域づくり事業
  - ・団体、同好会の育成支援
  - ・スポーツ協会
  - ・子ども会
  - ・育成会などとの連携